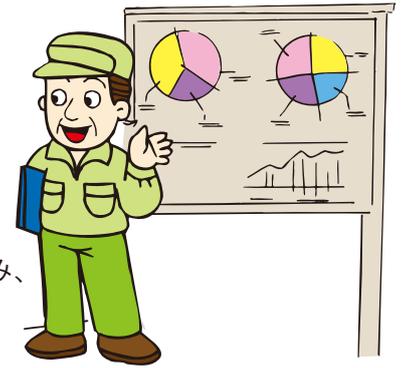


リスクアセスメントを 実施しましょう

安全衛生法令を守るだけでなく、現実の危険を排除しなければ先に起こりうる労働災害を防ぐことはできません。職場全員の「危険」の感受性で、危険の芽を摘み、労働災害を防ぎましょう。そのためには、リスクアセスメントの実施が効率的、効果的ですから次のステップにしたがってリスクアセスメントを進めましょう。



天井クレーンの共吊り作業でのリスクアセスメント実施事例

● 作業内容

工場内で鋼製角パイプ材（約1t）を2台の天井クレーン（つり上げ荷重1.5t）を用い移動させる作業

ステップ1 危険源の洗い出し

- 専用の吊り具が外れて荷が落下する

ステップ2 リスクの評価を行い、速やかにリスク低減措置を講ずる必要があると決定

- 上記の作業は毎日何回か行うので、災害発生の可能性は中
- 荷が落下すると重傷災害になる可能性がある

発生頻度…中
重篤度…重大

ステップ3 リスク低減措置は工学的措置を優先し、管理的対策、個人用保護具の使用を後順位にする

- A 専用の吊り具は毎日の点検・整備を行う ① 実施順
- B クレーン運転時には周囲に警告、監視する指揮者を選任する ②

ステップ4 リスク低減措置を実施する

共吊りの運転にあたっては決められた合図等、運転方法を定める

運転者が工場内のフォークリフト等と激突しないよう指揮者が警告する

天井クレーンの共吊りは技術が必要であるので熟練した運転手に運転を行わせる

専用の吊り具が破損等しないよう、定期的な点検・整備を行う

吊り荷の下および周辺に労働者を立ち入らないよう指揮者が監視する

事故例

専用吊り具のピンが外れて荷が落下。近くを通過していた労働者に激突した

● リスクアセスメント実施結果

作業	リスク	リスクレベル	低減措置	優先順位
天井クレーンの共吊りで荷を運搬する作業	吊り荷が落下して作業者に激突する	Ⅳ 重大な問題あり 発生頻度…中 重篤度…重大	A	①
			B	②